

インフラの老朽化対策の推進に関しては、関係省庁連絡会議による「インフラ長寿命化基本計画」が平成25年11月にとりまとめられ、さらには、国土交通省が所管するインフラに対する中長期的な取り組みである「国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」が平成26年5月にとりまとめられています。この国土交通省の計画では、ライフサイクルの延長という狭義の長寿命化だけでなく、インフラのもつ機能を将来まで持続させることを目指しています。

今月号の特集では、鉄道の長寿命化に関する記事として、レールの損傷予測手法、軌道スラブの予防保全方法、信号機更新時

期の評価法、山岳トンネル盤ぶくれ対策の効果予測手法、液状化被害への基礎構造物の対策工法を紹介しました。鉄道はさまざまな技術分野の集積システムですので、個々の分野の長寿命化が重要であり、鉄道総研ではこれからもさらなる技術開発と実用化を推進していきます。

来月号の特集は「画像・予測技術の鉄道への応用」です。画像処理やハザード予測の技術を輸送の安全性向上や保守管理の効率化などに活用する研究開発について研究事例や技術動向を紹介します。どうぞご期待ください。(S. Y.)

■2019年9月号の訂正とお詫び

RRR誌2019年9月号に誤植がございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

頁	記事	箇所	誤	正
1	目次	12頁「超電導磁気軸受を用いたフライホイールで電力をたくわえる」の執筆者	山下和久	山下知久